

◆ 地域連携室

室長 内田耕人 兼務

(1) 地域連携室の体制

2015年度は医療相談室を増員し、社会福祉士1名（室長兼務）専任でスタートした。

(2) 地域連携

① 前方連携（紹介受け入れ）

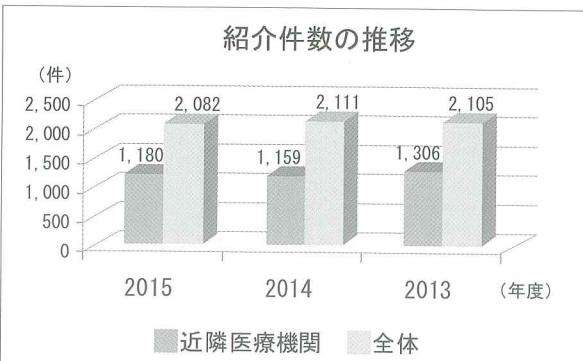
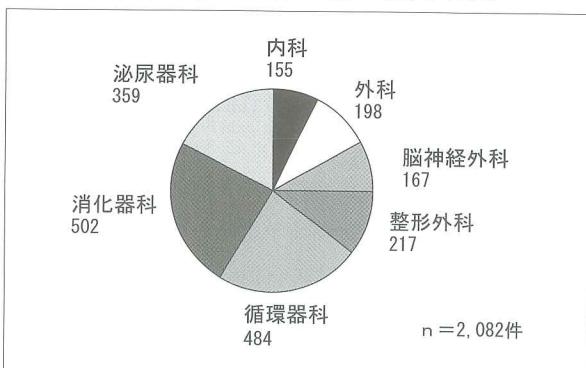
全体の紹介件数は2,082件で、近隣医療機関（三角町、大矢野町、松島町）からの紹介は1,180件であった。全体の紹介件数は前年度から若干減少し、近隣医療機関からの紹介は逆に微増となった。

紹介元の状況をみると、2015年度も同様に全体の約55%が近隣の医療機関の紹介だった。前述したとおり、科別としては、医師の退職があった内科への紹介数が減少し、消化器内科、泌尿器科（腎臓内科）への紹介は増加した。また、循環器科（循環器内科・心臓血管外科）、消化器科（消化器内科・肝臓）、泌尿器科（腎臓内科）の占める割合が全体の約65%となっており、今後、外科系診療科の強化が当院の課題である。

また、今年度もシームレスな診療体制構築のため、入院された際の紹介元への経過報告、近隣医療機関がかかりつけの場合は、紹介の際と同様に入院報告、経過報告、最終報告を徹底している。

当院周辺地域の医療環境上、直接当院へ受診される方も多いため、今後も入院時スクリーニングを徹底し、かかりつけの先生方との連携に配慮していきたい。

紹介件数の推移・内訳（全体・近隣/科別）



(3) 連携活動

① 連携先訪問

2015年度は18ヵ所の連携先を訪問した。訪問目的としては連携担当者への挨拶や紹介患者さんの経過報告、連携上何か問題がなかったか意見を伺うためであった。2015年度は、紹介の多い近隣医療機関へ定期訪問を行った。その中で紹介患者の詳細、処方のこと、当院へのご意見、現在取り組まれている活動など様々な内容のお話を伺うことができ、その内容を院内スタッフへも発信した。また、当院の近況を先生方へ直に伝えることができ、真の地域連携活動ができたのではないかと振り返る。ただ、この活動は始めたばかりなので、今後も継続して行けるよう様々な企画を練って取り組みたい。その他としては、急性期病院から転院相談があった場合、その送迎を行い、その際連携担当者への面会や過去紹介があった患者さんの報告なども行った。この活動も今後積極的に行っていきたい。

② 在宅医療連携拠点事業

2013年度から医師会が主となり在宅療養体制構築に向けた活動が行われているが、今年度も会場設営や職員の会議参加などに協力した。この活動は2015年度で終了し、来年度からは各市町村で行う予定となっている。この事業は当院の地域的な面（2つの医療圏にまたがっていること）を考慮していただいたが、今後は各市町村での活動になるため、医療連携部内で担当地区を分担し、情報共有ができるようにしたい。

(4) 出前・健康講座

2015年度の講座件数は77回と過去2番目の多さとなった。依頼内容としては、前年度同様、腰痛・膝痛・肩こり・認知症予防等のリハビリテーション室の派遣が一番多かった。個別の項目では、医師による脳卒中・認知症・生活習慣病予防に関する事、急変時や意思疎通ができない時に備えた事前指定書に関する講座が最も多く、この2つで計20回の講座を行っている。また、依頼を頂く地区としてはこれまでと同じく宇城市、上天草市、宇土市が中心であり、ここ最近、地域福祉活動（福祉会の設立）がどの地域でも盛んで、その活動の一環として依頼があることが多くなってきていている。この活動の長所は、病院が主催するのではなく、外部からの要望で活動しているところで、世の中の流れにあった活動と言えるのではないかと感じている。講座開始から今年度までの回数も498回と次年度には500回を超えることが予想される。今後も派遣スタッフの拡大、講座内容の見直し等を行い、聴講者に少しでも満足して頂けるよう取り組んでいきたい。

(5) 次年度の計画

2015年度は社会福祉士1人の体制となったが、部内で業務分担ができ、専任として活動ができた。今年度は本格的な地域連携室業務のスタートとなったが、まだ課題は山積している。次年度も現活動を成熟させながら、地域、連携機関そして当院皆がwin-win-winとなるような関係づくりに取り組んでいきたい。